

日本短角種産肉能力検定（間接法）成績

（畜試 肉牛部）

1、背景とねらい

産肉能力直接検定成績が優れた種雄牛について間接検定を実施し、その屠体成績が得られたので、種雄牛交配計画のための参考に供する。

2、技術の内容

1) 昭和63年度日本短角種間接検定成績

検 定 牛	波 幸 (N= 7)	宝 錦 (N= 8)	崎 橋 (N= 8)	若 里 (N= 8)	福 波 (N= 8)
生 年 月 日	60. 3.24	60. 3.25	60. 3.30	60. 3.14	59. 2.26
登 録 番 号	本 849	本 821	本 823	本 822	本 763
血 統	父 岩 波 (本601)	崎 宝 (本617)	崎 宝 (本617)	若 波 (予岩601)	波 崎 (本414)
	母の父 清 錦 (予岩382)	森 山 (本484)	雲 光 (本353)	笹 泉 (本250)	富 川 (予岩419)
直接検定・・D G	1.57	1.57	1.71	1.66	1.30
体 重	開始時 263.1± 15.2	268.8± 33.8	264.5± 26.8	250.8± 17.7	273.2± 47.9
	終了時 619.3± 23.2	604.2± 53.6	592.5± 44.8	553.8± 39.6	593.2± 94.1
1日当り増体量	1.16±0.08	1.09±0.11	1.06±1.10	0.98±0.10	1.04±0.16
1KG増体T D N	6.10	6.40	6.39	6.55	6.22
枝 肉 歩 留	62.0±1.7	62.2±1.6	62.3±0.6	61.6±1.2	62.5±1.4
ロース芯断面積	41.0±3.7	40.8±4.5	39.3±5.6	41.0±4.1	42.6±4.5
背部皮下脂肪厚	2.3±0.4	2.1±0.5	1.8±0.5	2.0±0.2	2.1±0.5
脂肪交雑・(BMS)	1.0±0.4	0.9±0.2	0.6±0.2	0.8±0.4	0.7±0.3
枝 肉 格 付	A3-2 A2-2 B3-1 B2-2	A3-2 A2-4 B3-2	A3-1 A2-3 B3-1 B2-3	A3-5 A2-3	A3-3 A2-4 B3-1

- ・波幸は1日当り増体量(1.16kg)が優れ、現行法による検定を実施した種雄牛38頭中2番目の成績である。1kg増体に要するTDN(6.10kg)及び脂肪交雑(1.0)にも優れているが、きめ、しまりが劣り、皮下脂肪厚(23mm)もやや厚めである。
- ・宝錦は1日当り増体量(1.09kg)、1kg増体に要するTDN(6.40kg)、粗飼料摂取率(29.3%)と増体能力に優れる。しかし、肉のきめ、しまりが劣り、筋間脂肪(59mm)も厚い傾向にある。
- ・崎橋は1kg増体に要するTDN(6.39kg)、皮下脂肪厚(18mm)に優れる。脂肪交雑(0.6)、ロース芯面積(39.3cm²)は劣り、A3格付率が検定牛中最も低い13%である。
- ・若里は脂肪交雑(0.8)は中程度であるが、きめ、しまりが比較的優れ、A3格付率63%と高い。1kg増体量(0.98kg)、枝肉歩留(61.6%)はやや劣る。
- ・福波は検定調査牛の体重日齢にバラツキがあり、終了時体重、一日当り増体量については変異が大きい。1kg増体に要するTDN(6.22kg)、ロース芯面積、枝肉歩留に優れるが、肉のきめ、しまりがやや劣る。

3. 指導上の留意事項

- 1) 交配種雄牛を選定する際は、近親交配を避け、産子の近交係数が12%を越えないようにする必要がある。

2) 間接検定方法

期 間 308日間

飼料給与 濃厚飼料；間接検定飼料(TDN73.0%、DCP10.0%)

体重比1.8%制限

粗飼料；デントコーンサイレージ(前期のみ)及び乾草を飽食

4. 関連試験課題名

日本短角種産肉能力検定(間接法)